

## 第3代総長 <sup>かつぬませいぞう</sup> 勝沼精蔵 — 名大をひきいた人びと⑧ —

第3代総長の勝沼精蔵は、1886(明治19)年、当時の兵庫県神戸区に生まれました。のち母の郷里に移り、県立静岡中学校、第一高等学校をへて、1911年に東京帝国大学医科大学(現在の東京大学医学部)を卒業、大学に残って内科学や病理学の研究を続けました。

そして1919(大正8)年には愛知県立医学専門学校の教授に、23年には同校が昇格した愛知医科大学の教授(内科学)に就任します。勝沼の血液学は当時から高く評価され、ドイツ留学から帰国後の26年には、39歳で帝国学士院賞(現在の日本学士院賞)を受賞しました。のち1954(昭和29)年には、文化功労者に選ばれるとともに文化勲章も受賞しています。

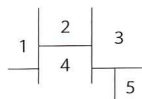
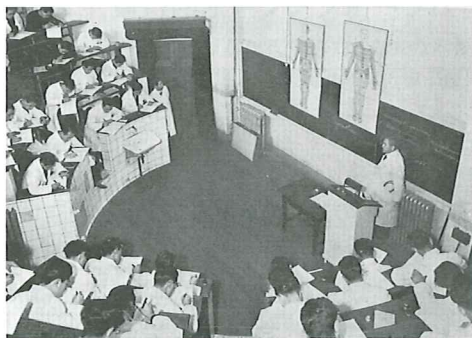
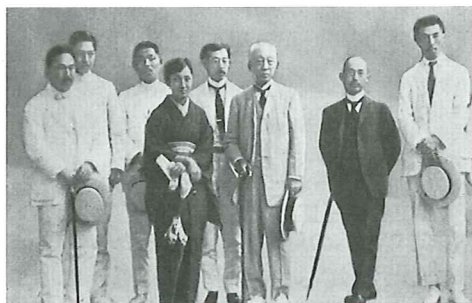
その後、官立移管された名古屋医科大学の教授・附属医院長、39年創立の名古屋帝国大学でも医学部教授(内科学第一講座)となり、ここでも医学部附属医院長を務めました。そして戦後、名大が新制大学に移行してまもなくの

1949年7月、第3代総長に就任しました。

その在任は10年におよびます。1950年には法経学部を法学部と経済学部に分離したほか、51年には田村前総長時代に実現しなかった農学部の創設に成功し、これで名大は一通りの学部をそろえました。

ただ、これらの学部の所在地は各地に分散しており、東山への集結が強く望まれました。そこで勝沼総長は、各地の名大の施設や敷地の取得を希望する自治体や企業に、その代価として東山に校舎を建設してもらう、「建築交換方式」を確立しました。この方法によって、学部が東山集結が早く実現することになりました。

そして、1960年の完成時には総長を退任していましたが、現在も名大のシンボルであり続けている豊田講堂の建設も大きな事績です。勝沼総長がトヨタ自動車工業(現在はトヨタ自動車)に重ねて足を運んで依頼し、同社の全額寄附による、名大念願の講堂建設が成ったのです。



- 1 勝沼精蔵(1886-1963)。在任10年は歴代総長で最長だが、次の松坂総長以降は6年が任期の上限とされた。また、新制大学になってからは学長が法的な名称だが、一般には総長の呼称もよく使われていた。
- 2 勝沼は、第1次世界大戦のパリ講和会議(1919年)の首席全権西園寺公望に随行した。これをきっかけに、勝沼は西園寺の主治医となり、それは1940年に西園寺が亡くなるまで続いた。写真は、パリへの途上、ペナン植物園(現在のマレーシア)での写真(勝沼精蔵『桂堂夜話』より)。西園寺(右から3人目)、勝沼(左から2人目)のほか、近衛文麿(右端)の姿も見える。
- 3 愛知医専に赴任してまもない頃の勝沼(中央、1921年の愛知医専卒業アルバムより)。
- 4 勝沼教授の講義(『桂堂夜話』より)。
- 5 豊講正面玄関から入ってすぐのロビーにある勝沼のブロンズ胸像(1965年、医学部内科第一講座同窓会建立)。